



夏を思わせる暑い天候が続きましたが、ようやく梅雨入りとなりました。法学類月報第 20 号では、齊藤高広教授の紹介、「講義室から」では外国法特講(交渉学)、オープンキャンパスのご案内をお届けします。



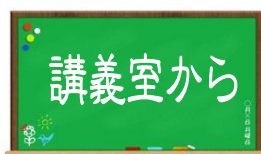
◆連載◆ 法学類の先生 第 18 回 齊藤高広先生(経済法)

毎年同じノートを繰り返し読んでいるだけの授業がある、と云われている。自分の学生時代を振り返ると、恵まれていたのか、そのような授業の記憶はなく、いや、正確には、履修を忌避し出席を嫌忌していただけだったのかもしれない。

自らを点検すると、世知辛いイメージが先行する市場・競争・交易などを対象に、競い合いのルールを考える法律科目を講じている。いわゆる先端科目の 1 つだ。多様な価値観とダイナミック感を損なわず、それでいて新参者や余所者、実質的な弱者にいつも目配りする。複雑で流動的な経済現象を扱うため、日々、ネタの仕入れと見直しを怠ることなどできない。よく言えば飽きが来ず、悪く言えば落ち着きがない、ということだ。

ただ、科目特性と担当教員の性格に強い相関関係があるかは不明だが、繰り返されるべき単調さも、当然、大事なことだ。ある程度普遍的な法の理念と目的達成の手段については頻繁な大幅変更はない。それらを繰り返し伝達し共有するのは、幸いこの仕事を託されている限り、不可欠なことでもある。

ところで、繰り返される教育と研究活動には壁が付き物だ。理論構築や説明に何が足りないか。その解決策は学生時代と同じ休暇シフトを組むことにあるのではないかと、授業中受講生が見ている白昼夢のような空想世界に思いを馳せたくなる日々が続いている。



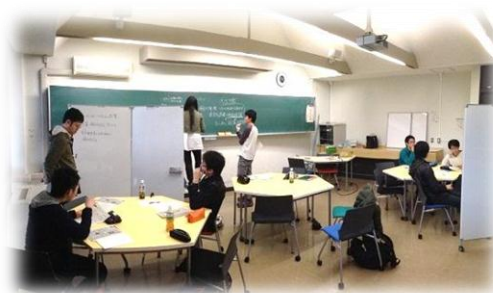
外国法特講「交渉学」

外国法特講「交渉学」は、2009 年に試験的に行われ、翌年から正式開講した、法学類では比較的新しい科目です。日本では、多くの人が

がドラマや映画、あるいは口の達者な政治家の影響で、交渉とは勝つか負けるかの冷酷な駆け引きであり、交渉術とは、口喧嘩で相手をねじ伏せる技術であると誤解しています。

それに加えて、法学教育では、対立する当事者の主張が裁判所により決着がつけられるので、その裁判所の結論を最終的な「正解」として「覚える」ことが、法学類生の重要課題と考えがちです。

この講義では、アメリカのロースクールやビジネススクールで標準的にとられている考え方、すなわち、交渉とは紛争当事者双方にとって利益があるように問題を解決するプロセスであり、交渉術とは、コミュニケーションの技術の総体であるという考え方に立ち、様々なシナリオを使いながら、問題解決のための交渉のあり方を学びます。したがって毎週の授業は、講義というよりも実習に近いものになることが多く、その意味では、現在盛んにその重要性が指摘されているアクティ



ヴ・ラーニング形式の授業と言えます。学生は、シナリオに基づきシミュレーションを行い、後で、他の学生とともに、合意内容や合意に至る過程を振り返りながら、より良いコミュニケーションのあり方について自分なりのスタイルを身につけていきます。コミュニケーションに関心のある人は、ぜひこの科目を受けてみてください。

担当教員 東川浩二



きまつし！オープンキャンパス 2015 ～法学類企画のご案内～

8月10日（月）、11日（火）の両日、角間キャンパス人間社会第1講義棟でオープンキャンパスを開催します。法学類では、法学類をトコトン楽しむ1日コース、気軽に参加できる半日コースをご用意して、たくさんの高校生の皆さまのお越しをお待ちしています。

1日コースでは、法学類の概要説明の後、裁判劇を制作した法学類生による“裁判劇をもっと深く味わうためのレクチャー”を受けます。昼食をはさんで裁判劇を傍聴し、さらに他の参加者や法学類生と一緒に、劇中の事件の解決方法を考えるディスカッションを体験することができます。半日コースでは、午前の部・午後の部とも、法学類の概要説明の後、法学類生が大学生活について語る「トークセッション with 金大 students」、または法学類生の上演する裁判劇の傍聴のどちらかを選んで参加することができます。

オープンキャンパスへの参加は事前の申込みが必要です。申込み方法等については、金沢大学 Web サイト (<http://www.kanazawa-u.ac.jp/enter/event/opencampus.html>) をご覧ください。法学類企画の詳細情報は法学類 Web サイト (http://www.law.kanazawa-u.ac.jp/home/prospective/open_campus) で随時お知らせします。



- 法学類の学生、卒業生、教員に関するイベント等の情報を、ぜひお寄せください。
- 関係者の皆様のご寄稿を歓迎します。採用された方には、法学類グッズを進呈します。
- 本誌のバックナンバーは、金沢大学法学類 Web サイトに掲載していますのでご覧ください。(<http://www.law.kanazawa-u.ac.jp/home/geppo>)
また、メールでの定期配信（無料）をご希望の方は、金沢大学人間社会系事務部学生課 法・経済学務係 (n-hkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp) までお申し込みください。
- お読みになってのご意見ご感想は、上記メールアドレスまでお寄せください。